

第45回 頭頸部・胸部画像研究会

- 日 時：2016年5月28日（土） 14:00～18:00（予定）
- 会 場：ステーションコンファレンス東京 東京駅サピアタワー5F
電話 03-6888-8080 詳細地図は最後のページにあります
- 当番世話人：頭頸部 本折 健（津田沼中央総合病院）
胸 部 藤澤英文（昭和大学横浜市北部病院）

<頭頸部>

代表世話人：山田恵子（がん研有明病院）

世 話 人：塚本 浩（藤沢市民病院）

辰野 聡（八重洲クリニック）

栗原宜子（町田市民病院）

浮洲龍太郎（北里大学）

尾尻博也（東京慈恵会医科大学）

酒井 修（ボストン大学）

田中宏子（がん研有明病院）

豊田圭子（帝京大学）

藤田晃史（自治医科大学）

森 壘（東京大学）

本折 健（津田沼中央総合病院）

久野博文（国立がん研究センター東病院）

木村幸紀（昭和大学歯科病院）

池田耕士（関西医科大学総合医療センター）

顧 問：多田信平

<胸 部>

代表世話人：南 学（筑波大学）

世 話 人：松岡 伸（聖マリアンナ医科大学）

佐藤雅史（東邦大学大橋病院）

酒井文和（埼玉医大国際医療センター）

楠本昌彦（国立がん研究センター東病院）

荒川浩明（獨協医科大学）

岩澤多恵（神奈川県立循環器呼吸器病センター）

氏田万寿夫（立川総合病院）

横山健一（杏林大学）

叶内 哲（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

栗原泰之（聖路加国際病院）

坂井修二（東京女子医科大学）

杉浦弘明（慶應義塾大学）

藤澤英文（昭和大学横浜市北部病院）

顧 問：土井 修

※当日、会費 1,000 円を徴収いたします。

※研究会後に情報交換会を予定しております。

※情報交換会にて各部門の優秀者を発表、並びに表彰致します。

演者へのお願い

発表データは、USBメモリースティック・CDなどで当日受け付けます。
ご発表の30分前までにはPC受付へお越しください。なお、動画データを含む場合やMac作成データの場合は、不具合を避けるため、できるだけご自身のパソコンをご持参願います。一般演題は発表6分・質疑2分、症例報告（1例報告）は発表5分・質疑1分でお願い申し上げます。

共催 頭頸部・胸部画像研究会
富士製薬工業株式会社

Time Schedule

開会の辞		14:00
頭頸部	一般演題	14:03 ~ 15:20
	特別講演 1	15:20 ~ 16:05
Coffee Break		16:05 ~ 16:25
胸 部	特別講演 2	16:25 ~ 17:10
	一般演題	17:10 ~ 17:54
閉会の辞		17:55
情報交換会		18:00

【 特別講演 1 】

千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授 岡本美孝
「唾液腺腫瘍のマネジメント」

【 特別講演 2 】

岡山大学病院 放射線部 准教授 郷原英夫
「肺 RFA 後の画像所見」

— PROGRAM —

14:00 開会の辞 本折 健（津田沼中央総合病院）

14:03 一般演題（頭頸部①）

司会：森 壱（東京大学）

演題 1 鼻副鼻腔孤立性線維性腫瘍の 1 例

北里大学医学部・放射線科学(画像診断学)¹⁾ 同・耳鼻咽喉科・頭頸部外科²⁾ 同・病理科³⁾
菅原暖斗¹⁾、浮洲龍太郎¹⁾、山根拓郎¹⁾、井上優介¹⁾、鈴木立俊²⁾、山下 拓²⁾、
秋谷昌史³⁾、梶田咲美乃³⁾、村雲芳樹³⁾

【要旨】40 歳代・女性、鼻閉感。CT、MRI で右側の中鼻道・副鼻腔に上顎漏斗の開大を伴う軟部組織腫瘍を認めた。内視鏡下副鼻腔手術にて右前頭蓋底に基部を持つ腫瘍が摘出され、孤立性線維性腫瘍と診断された。

演題 2 内耳道入口部の骨性隆起 2 症例の検討

筑波大学附属病院 放射線診断・IVR 科¹⁾ AIC 八重洲クリニック 放射線科²⁾
檜山貴志¹⁾、森 健作¹⁾、増本智彦¹⁾、辰野 聡²⁾、南 学¹⁾

【要旨】症例 1) 50 才代女性。検診 MRI にて異常を指摘。症例 2) 30 才代女性。筋強直性ジストロフィーで通院中、前庭性眼振のため精査。いずれも CT・MRI で内耳道入口部付近に骨性隆起を認めた。文献的考察を踏まえて報告する。

演題 3 後咽頭間隙に巨大嚢胞を形成した梨状窩嚢胞の 1 例

聖マリアンナ医科大学放射線科¹⁾ 町田市民病院²⁾
藤川あつ子¹⁾、栗原宜子²⁾、坂元伸吾¹⁾、齋藤祐貴¹⁾、北川博昭¹⁾、中島康雄¹⁾

【要旨】胎児期発見の後咽頭間隙から左副咽頭間隙を介し、気管左側まで至る嚢胞性病変の症例である。出生後、嚢胞内容物が空気に置き換わり、臨床的に梨状窩嚢胞が考えられた。その後、梨状窩からの瘻孔が確認され梨状窩嚢胞の診断となっている。

演題 4 wandering carotid artery の 1 例

東京歯科大学市川総合病院 放射線科¹⁾ 東京慈恵会医科大学放射線医学講座²⁾
東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター放射線科³⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院⁴⁾
馬場 亮¹⁾、尾尻博也²⁾、荻野展広³⁾、山内英臣²⁾、山添真治¹⁾、清水勸一朗⁴⁾、
宗友洋平¹⁾、小橋由紋子¹⁾、最上拓児¹⁾

【要旨】上顎歯肉癌術後の 50 歳代女性。37 ヶ月の経過観察期間の CT 上、両側頸動脈ともに咽頭後部へ移動、再び正常位置に戻る事象が経時的に確認された。臨床的意義を含め、文献的考察とともに報告する。

演題 5 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) の 1 例

日本大学松戸歯学部 放射線学講座¹⁾ 日本大学松戸歯学部 口腔病理学講座²⁾
福田大河¹⁾、川島雄介¹⁾、平原尚久¹⁾、村岡宏隆¹⁾、石田茉莉江¹⁾、関谷恵子¹⁾、
末光正昌²⁾、久山佳代²⁾、金田 隆¹⁾

【要旨】症例は 67 歳女性。上顎の疼痛を主訴に来院した。単純 CT 検査で腐骨による不透過像がみられ、その周囲の頬側皮質骨に一部断裂が見られた。同症例の臨床経過および文献的考察を加えて報告する。

演題 6 頭蓋底骨髄炎の画像所見

帝京大学医学部放射線科¹⁾ 三重大学大学院医学系研究科放射線医学教室²⁾
三重大学大学院医学系研究科先進画像診断学講座³⁾ 東京大学大学院医学系研究科
放射線医学講座⁴⁾
中井雄大¹⁾、豊田圭子¹⁾、海野真記²⁾、前田正幸³⁾、森壘⁴⁾、國松聡⁴⁾、棚橋裕吉¹⁾、
大場洋¹⁾、古井滋¹⁾

【要旨】頭蓋底骨髄炎と診断された 9 例において画像所見の特徴を検討した。浸透性の骨髄進展 (9/9)、筋束を取り残した進展 (6/9)、膿瘍形成 (4/9)、T2 強調像著明低信号域 (4/9) などが特徴的と考えられた。

14:41 一般演題 (頭頸部②)

司会：浮洲龍太郎 (北里大学)

演題 7 下顎骨に発生したコレステリン肉芽腫の 1 例

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門¹⁾
昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門²⁾
花澤智美¹⁾、黒田沙¹⁾、木村幸紀¹⁾、入江太郎²⁾、美島健二²⁾、荒木和之¹⁾

【要旨】患者は 31 歳、男性。パノラマや CT では良性腫瘍として非特異的な所見を呈したが、鑑別診断には MRI が有用である事が示唆された下顎骨のコレステリン肉芽腫を経験したので、画像を供覧し文献的考察を含めて報告する。

演題 8 上顎洞血瘤腫を合併し、低分化腺癌様成分を伴った嗅裂 Respiratory epithelial adenomatoid hamartoma (REAH) の 1 例

千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学¹⁾
千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学²⁾
千葉大学大学院医学研究院診断病理学³⁾
西山晃¹⁾、堀越琢郎¹⁾、山崎一樹²⁾、花澤豊行²⁾、松嶋惇³⁾、中谷行雄³⁾、
岡本美孝²⁾、宇野隆¹⁾

【要旨】50 歳代男性、上顎洞血瘤腫を合併した嗅裂腫瘍。低分化腺癌様成分を伴った REAH の病理学的診断であった。REAH はまれな病変で、腺癌様成分の合併例はさらに少ない。文献的考察を交え報告する。

演題 9 上顎洞に発生した筋上皮癌の一例

岐阜大学医学部放射線科¹⁾

永田翔馬¹⁾、加藤博基¹⁾、松尾政之¹⁾

【要旨】筋上皮癌は耳下腺を好発部位とする稀な唾液腺腫瘍である。副鼻腔には小唾液腺由来の腫瘍が発生することが知られているが、上顎洞に筋上皮癌が発生した報告はきわめて少なく、画像所見に文献的考察を加えて報告する。

演題 10 手術待機中に急速な増大を示した顎下腺多形腺腫の 1 例

自治医科大学放射線科¹⁾ 自治医科大学病理診断科²⁾

藤井奈々¹⁾、藤田晃史¹⁾、藤井裕之¹⁾、小川一成¹⁾、小林遼真¹⁾、杉本英治¹⁾、
天野雄介²⁾

【要旨】症例は 30 代男性、超音波下細胞診で右顎下腺多形腺腫と診断。手術待機中に症状増悪を自覚し、MRI でも腫瘍の増大を認めた。早期手術にて内部壊死を伴う多形腺腫と診断された。特異な経過を示したため報告する。

演題 11 異なる画像所見と臨床経過を示した耳下腺 mammary analogue secretory adenocarcinoma (MASC) の 2 例

千葉大学医学部附属病院放射線科¹⁾

千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学²⁾

千葉大学医学部附属病院病理部³⁾

千葉大学大学院医学研究院放射線医学 画像診断・放射線腫瘍学⁴⁾

大平健司¹⁾、堀越琢朗¹⁾、服部真也¹⁾、向井宏樹¹⁾、櫻井大樹²⁾、岡本美孝²⁾、
神戸美千代³⁾、宇野隆⁴⁾

【要旨】MASC は 2010 年に報告された乳腺分泌癌と類似の組織型を示す唾液腺腫瘍であるが、画像の報告は少ない。今回、対極的な画像所見と臨床経過を示した耳下腺 MASC の 2 例を経験したので、文献的考察を交え報告する。

演題 12 頭頸部悪性腫瘍疑いの初回 CT 検査にて肺癌が疑われた症例の後ろ向き検討

国立がん研究センター東病院 放射線診断科¹⁾ 日本大学松戸歯学部 放射線学講座²⁾

ボストン大学医学部 放射線科³⁾ 筑波大学附属病院 放射線診断・IVR 科⁴⁾

関谷浩太郎^{1) 2)}、久野博文^{1) 3)}、檜山貴志⁴⁾、小林達伺¹⁾、岩田良子¹⁾、中神佳宏¹⁾、
島田 薫¹⁾、稲村健介¹⁾、富田隼人¹⁾、大島拓美¹⁾、金田 隆¹⁾、楠本昌彦¹⁾

【要旨】2015 年 3 月～2016 年 3 月の間に、初発の頭頸部悪性腫瘍が疑われ、胸部を含む CT 検査を施行した 401 例を対象とし、肺癌を疑う病変のみられた症例について後ろ向きに検討した。文献的考察を加え報告する。

15:20 特別講演1 (頭部)

「唾液腺腫瘍のマネジメント」

司会：本折 健（津田沼中央総合病院）

講演：岡本美孝（千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授）

【抄録】

唾液腺腫瘍に関しては、他の頭頸部領域の腫瘍とは異なった診断と治療の課題・特徴がある。まず、典型例を除くと良性か悪性かの鑑別が必ずしも容易ではないこと、悪性腫瘍の場合の悪性度の評価はさらに難しいことが挙げられる。背景には病理診断の困難さがある。さらに、現在の治療は外科手術が中心となっているが、特に悪性腫瘍の場合には麻痺のない顔面神経はどのように処理すれば良いか、進行がんの治療はどのようにするか、低悪性・高悪性腫瘍の治療成績をどのように評価すればよいのか、など様々な課題が存在する。

一般的な頭頸部腫瘍の評価には、診察に加えて、超音波検査、CT、MRI 検査、吸引細胞診検査、PET 検査が用いられるが、唾液腺腫瘍では、吸引細胞診検査の正診率が特に悪性腫瘍で乏しいこと、PET 検査の有用性が低いといった問題点がある。また、高悪性度癌の治療成績の向上が求められているが、特に遠隔転移の予防・制御については依然として多くの課題である。低悪性度癌についても治療後5年での生存率は高くても10年以上の経過を見ると必ずしも満足する成績ではない。

今回、「唾液腺腫瘍のマネジメント」というタイトルで、唾液腺腫瘍の治療にあたって良性・悪性唾液腺腫瘍の診断はどこまで可能か、必要か、画像評価の課題といった点について、治療担当医から放射線科診断の先生方のご参考になるような報告を目指したい。

MEMO

16:05 Coffee break (20分)

16:25 特別講演2（胸部）

「肺 RFA 後の画像所見」

司会：藤澤英文（昭和大学横浜市北部病院）

講演：郷原英夫（岡山大学病院 放射線部 准教授）

【抄録】

肺 RFA は保険未収載の治療法であるが、国内の複数の施設で積極的に行われており、近い将来保険収載されるものと思われる。肺 RFA 後の画像所見の報告は散見されるが、治療直後、経過観察中などに特徴的な画像所見を呈することがあり、その特徴を知ることが患者管理にも有益な情報となりうる。また再発像の特徴や評価方法について知っておくことは放射線診断医や患者を持つ主科の医師にとっても重要である。

今回肺 RFA 後の画像所見を、以下の項目に従って順の紹介していく。

1. 典型的な治療直後の CT 像
2. 焼灼後症候群と画像の関係
3. 再発のある場合、ない場合の形態的变化、造影効果
4. 治療効果と術前画像
5. よく知られた合併症
6. まれな合併症（気管支-胸腔瘻、穿刺経路播種、空気塞栓、神経損傷、仮性動脈瘤、緊張性気腫、間質性肺炎様陰影）

本発表が今後の診療の一助になれば幸いである。

MEMO

演題 1 中咽頭癌が疑われ紹介受診となったが、肺癌の内側翼突筋転移であった 1 例国立がん研究センター東病院 放射線診断科¹⁾日本大学松戸歯学部 放射線学講座²⁾ ポストン大学医学部 放射線科³⁾大島拓美¹⁾、関谷浩太郎^{1) 2)}、稲村健介¹⁾、富田隼人¹⁾、久野博文^{1) 3)}、小林達伺¹⁾
岩田良子¹⁾、中神佳宏¹⁾、島田 薫¹⁾、楠本昌彦¹⁾

【要旨】70 歳代・男性。開口障害を主訴に前医受診。中咽頭癌が疑われ当院紹介。当院画像では右内側翼突筋を主とした病変で、他に骨格筋転移を疑う所見と肺結節がみられ、原発性肺癌の骨格筋転移と診断された。

演題 2 偶発的に発見された気管壁肥厚の 1 例獨協医科大学病院放射線科¹⁾ 獨協医科大学病院呼吸器・アレルギー内科²⁾獨協医科大学病院病理診断科³⁾三須陽介¹⁾、荒川浩明¹⁾、楫靖¹⁾、中村祐介²⁾、三好祐顕²⁾、石井芳樹²⁾、中里宜正³⁾

【要旨】60 歳代男性。検診にて胸部異常影を指摘され、精査目的に受診した。当院の CT で、偶発的に気管壁肥厚が認められたため、精査を行った。文献的考察を加えて報告する。

演題 3 肺葉外肺分画症捻転の一例昭和大学横浜市北部病院放射線科¹⁾ 昭和大学横浜市北部病院こどもセンター²⁾昭和大学横浜市北部病院・病理科³⁾橋詰典弘¹⁾、児山久美子¹⁾、渡邊孝太¹⁾、松成一也¹⁾、片岡香絵¹⁾、藤澤英文¹⁾、
田山 愛²⁾、国村利明³⁾

【要旨】症例は 4 歳男児。急性腹症の診断で当院紹介受診となった。CT で増強効果のない左肺底部腫瘍と胸水を認めた。分画症捻転の診断の元に手術が施行され、術所見と病理所見から診断が確定された。画像所見を中心に、文献的考察を加え報告する。

演題 4 間質性肺炎における結節検出コンピュータ支援診断システムの有用性神奈川県立循環器呼吸器病センター放射線科¹⁾ 横浜市立大学医学部放射線科²⁾神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科³⁾二木将明^{1) 2)}、岩澤多恵¹⁾、関根朗雅³⁾、馬場智尚³⁾、小倉高志³⁾

【要旨】今回我々は肺結節検出用コンピュータ支援診断システムを用いて、間質性肺炎（IP）群、非 IP 群の結節検出能を評価した。IP 群で 10 結節中 9 個、非 IP 群で 9 結節中 9 個検出し、両群に有意差を認めなかった。

演題 5 重症レプトスピラ症（ワイル病）の 1 例聖路加国際病院放射線科¹⁾京坂朋来¹⁾、松迫正樹¹⁾、栗原泰之¹⁾

【要旨】レプトスピラ症はネズミなどの哺乳類を保菌動物とする人畜共通感染症であり、急速な経過をとるために早期診断が肝要となる。近年国内での発症は稀であるが、今回その 1 例を経験したので文献的考察を加え報告する。

演題 6 インフリキシマブ開始後に潜在性結核の発病し中止後に paradoxical reaction を呈したクローン病の一例東京慈恵会医科大学付属病院画像診断部¹⁾森川和彦¹⁾、三角茂樹¹⁾、福田大記¹⁾、福田国彦¹⁾

【要旨】70 歳台男性。クローン病に対しインフリキシマブ(IFX)開始後に潜在性結核（乾酪性肺炎及び胸膜炎）を発病し、結核治療開始、IFX 中止後に paradoxical reaction と考えられる粟粒結核の増悪と胸膜結核腫の遷延を呈した一例を経験した。

演題 7 フローラン投与によって増悪した肺静脈閉塞症の一例慶應義塾大学医学部放射線診断科¹⁾ 慶應義塾大学医学部循環器内科²⁾榎本悠里¹⁾、杉浦弘明¹⁾、片岡雅晴²⁾、陣崎雅弘¹⁾

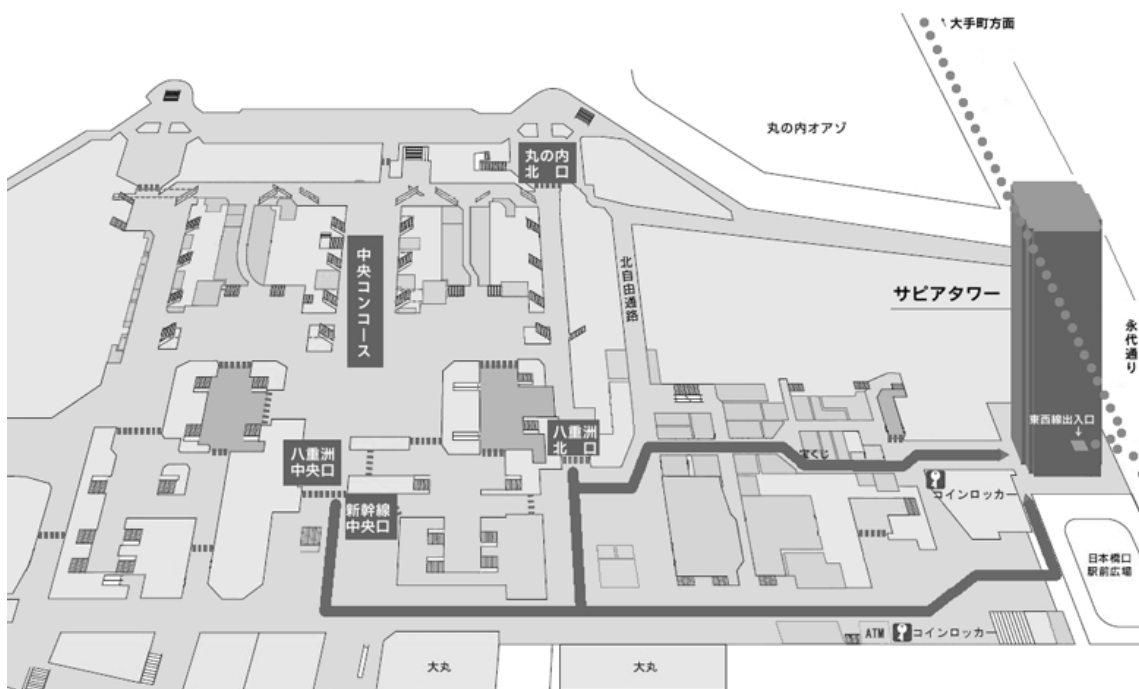
【要旨】60 歳代男性、労作時呼吸困難にて発症し、CT では肺動脈の拡張、すりガラス状陰影、小葉間隔壁の肥厚を認め、肺高血圧症と診断された。フローランが投与され症状が増悪した。稀な肺静脈閉塞症について文献的考察を加えて報告する。

17:55 閉会の辞 藤澤 英文（昭和大学横浜市北部病院）

18:00 ～ 情報交換会

MEMO

ステーションコンファレンス東京 アクセスマップ



JR 東京駅から…… 八重洲北口から徒歩 5 分です。

地下鉄大手町駅から…… 東西線大手町駅 B7 出口直結です。

〒 100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目 7 番 12 号サピアタワー